

平成19年11月8日

各 位

会 社 名 株式会社 ヤマックス  
 代表者名 代表取締役社長 茂森 潔  
 ( J A S D A Q ・ コード5285 )  
 問合せ先 代表取締役専務 茂森 拓  
 管理本部長  
 ( TEL . 096-381-5871 )

**平成20年3月期中間期（連結・単独）業績予想との差異及び  
 通期（連結・単独）業績予想の修正に関するお知らせ**

平成20年3月期（平成19年4月1日～平成20年3月31日）の中間期及び通期の業績予想につきまして、平成19年5月17日付当社「平成19年3月期決算短信」において発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成20年3月期 連結業績予想の修正等

(1) 中間期（平成19年4月1日～平成19年9月30日） (単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	中間純利益
前回予想 ( A )	5,500	10	170	180
今回修正 ( B )	5,687	51	80	137
増減額 ( B - A )	187	61	89	42
増減率	3.4%			
(ご参考) 前年同期実績 (平成19年3月期中間期)	5,661	24	155	185

(2) 通期（平成19年4月1日～平成20年3月31日） (単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当期純利益
前回予想 ( A )	14,000	610	270	250
今回修正 ( B )	14,000	610	270	202
増減額 ( B - A )	0	0	0	47
増減率	0.0%	0.0%	0.0%	19.2%
(ご参考) 前年同期実績 (平成19年3月期)	13,198	477	188	316

(3) 修正理由

当中間期の売上高は、単独の修正理由に伴い、前回予想を上回る見込であり、利益面につきましても、単独の修正理由に加え、連結子会社である株式会社ミナト建材における利益率を重視した選別受注などにより、営業利益及び経常利益は共に前回予想を上回る見込であります。

また、中間純利益につきましては、単独の特別損失の計上に加え、同連結子会社においても特別損失として訴訟和解費用（平成18年8月8日付で提起されておりました差押賃料債権の支払請求訴訟につき、平成19年7月27日に和解が成立したことによる弁護士費用及び和解金）を24百万円計上したものの、上記要因もあり、前回予想を上回る見込みであります。

なお、通期の連結業績予想は、単独の修正理由同様、売上高、営業利益及び経常利益の見込みに変更はありませんが、当期純利益につきましては、当中間期に訴訟和解費用などの特別損失を計上することから、前回予想を下回る見込みであります。

2. 平成20年3月期 単独業績予想の修正等

(1) 中間期(平成19年4月1日～平成19年9月30日) (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回予想(A)	4,600	0	140	150
今回修正(B)	4,793	39	88	116
増減額(B-A)	193	39	51	33
増減率	4.2%			
(ご参考)前年同期実績 (平成19年3月期中間期)	4,532	31	145	173

(2) 通期(平成19年4月1日～平成20年3月31日) (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	11,500	540	250	230
今回修正(B)	11,500	540	250	210
増減額(B-A)	0	0	0	19
増減率	0.0%	0.0%	0.0%	8.6%
(ご参考)前年同期実績 (平成19年3月期)	10,840	455	213	206

(3) 修正理由

当中間期の売上高は、土木用セメント製品事業におけるプレキャスト製品化の推進活動や民間工事への積極的なアプローチなどにより受注が堅調に推移したことなどから、前回予想を上回る見込みであり、利益面につきましても、上記要因に加え、利益率を重視した選別受注などにより、営業利益及び経常利益は共に前回予想を上回る見込みであります。

また、中間純利益につきましては、特別損失として投資有価証券評価損を20百万円計上したものの、上記要因もあり、前回予想を上回る見込みであります。

なお、通期の単独業績予想は、売上高の見込みに変更はなく、営業利益及び経常利益につきましては、当中間期にて前回予想を上回る見込みであるものの、今後の原材料の高騰なども懸念されることから前回予想に変更はありません。当期純利益につきましては、当中間期に投資有価証券評価損を特別損失として計上することから、前回予想を下回る見込みであります。

本業績予想の算出につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて行っておりますので、今後の様々な要因の変化により、実際の業績とは異なる可能性があります。

以 上